

# みしま

## 年中行事

◎特集

2009  
2

広報みしま No.191

Photo/ 1月15日、雪が降りしきる中、小正月行事「サイの神」が町内11地区で行われた。写真は大登地区。  
三島町の「サイの神」は、昨年3月、国の重要無形民俗文化財に指定されている。指定名は「三島のサイノカミ」

# 年中行事

◎特集

遠い昔から、受け継がれてきた伝統  
その中に、大切にしたいものがある

1月15日、小正月の行事「サイの神」が町内11地区で行われた。この行事は、五穀豊穡や家内安全などを願って行われる。写真は、大登地区の「サイの神」作りの様子。地区の男性が力を合わせ、高さ約12mの「サイの神」を立てた。



西方地区の「虫送り」。害虫を追い払い豊作を願う行事で、6月上旬の「さなぶり」の日に行われる。

## 注目される年中行事

しかし、現実には……町内では、多くの年中行事が継承されています。代表的な行事「サイの神」は、昨年三月、国の重要無形民俗文化財に指定されました。そのほか、「鳥追い」や「虫送り」など町内三十三箇所の行事が、県の重要無形民俗文化財に指定されています。それらの行事が、住民の暮らしの中に根付いており、全国でも類を見ない地域だといわれるほどです。関心を向ける研究者や観光客が訪れるようになり、テ

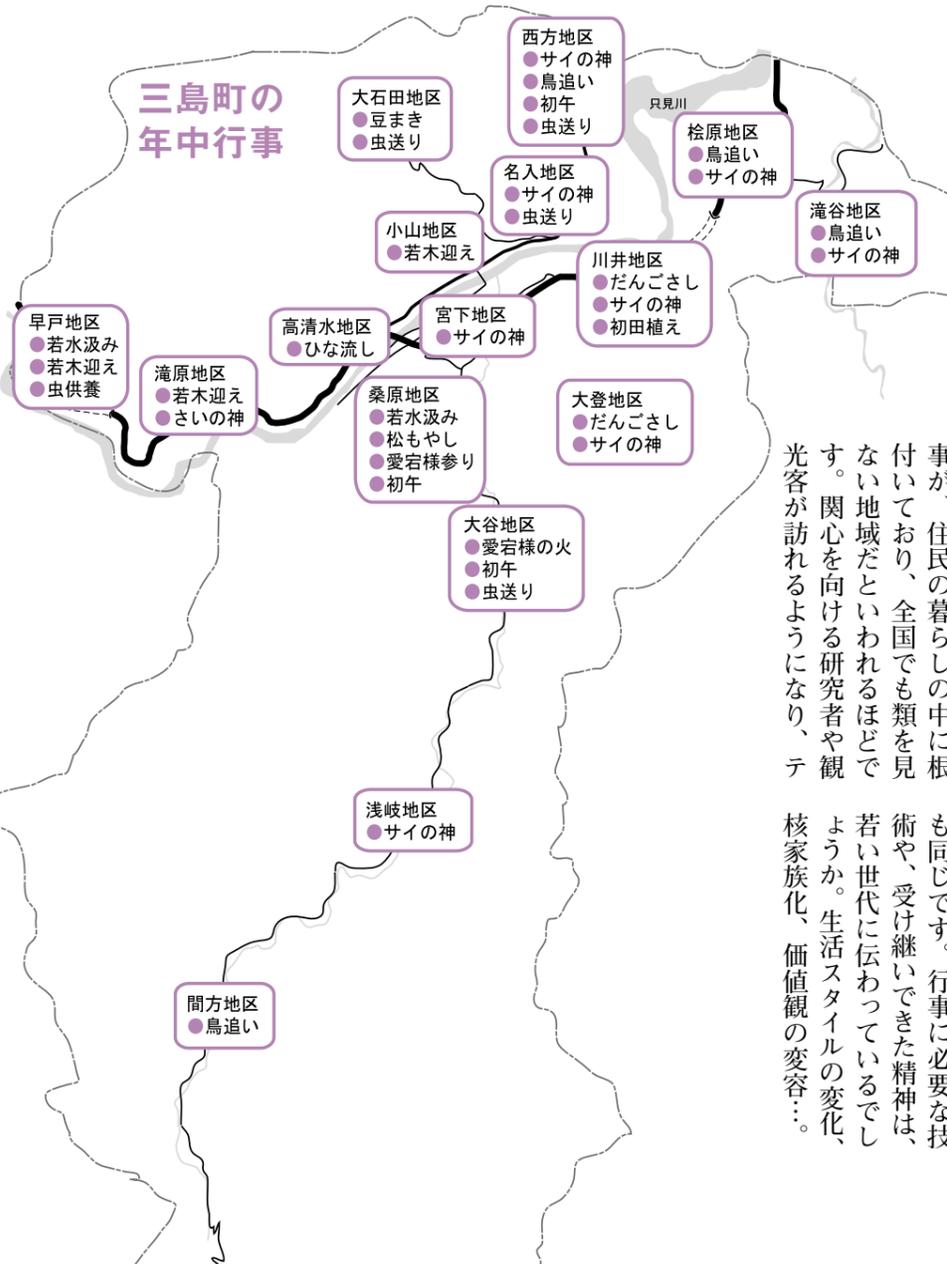
レビや新聞の取材も毎年のように来ます。また、文化庁が全国の自治体から二十件を選定した「文化財総合的把握モデル事業」に、三島町が選ばれました。住民の皆さんが守り続けてきた生活文化が、注目の的となっています。しかし、現実はどうでしょう。少子高齢化が進む中で、人手が足りないのはどの地区も同じです。行事に必要な技術や、受け継いできた精神は、若い世代に伝わっているのでしょうか。生活スタイルの変化、核家族化、価値観の変容……

そのような言葉で表される現代社会の中で、年中行事も実生活から離れていっているのが現状です。

先人から代々受け継がれてきた年中行事。なぜ注目があがるのか、どんな意味があるのか、改めて考えてみましょう。

1月14日、小正月の行事「鳥追い」が椀原地区と滝谷地区で行われた。この行事は、豊作を願って害鳥を追い払うために行われる。写真は、椀原地区の「鳥追い」の様子。中学生から幼児までの子どもたちが、害鳥を追い払う意味の言葉や絵を描いた旗を作り、夜7時、その旗を持って「今日はどこの鳥追いだ。長者様の鳥追いだ。ホヤーホヤー」と掛け声をかけながら集落内を歩いた。

## 三島町の年中行事





火が落ちてきた頃、人々は餅やスルメを焼いて食べ、御神酒をいただく。



多賀神社で松明に火を灯す。

餅やスルメを食べ  
御神酒をいただく  
楽しい冬の  
楽しいひと時



※オンベ  
「サイの神」の上部に付けるもの。扇子と紙を重ねて切った幣束などからなる。オンベ、オンペイ、ゴヘイなどとも呼ばれる。

の1連の作法に、信仰の文化が色濃く残っています。御神木をバンバ（御神木を立てる場所）までロープで運び、ワラや豆がらなどの「燃え種」を集めて「サイの神」を作ります。ワラの巻き方や縄の縛り方などに工夫された技術があり、大登でも正しくできる人は少なくなつたそうです。ワラを巻き終えると、※オンベを上部に縛り付け、梯子を使って「サイの神」を立てます。長い梯子、短い梯子をうまく使ってバランスを取りながら、徐々に立ち上げていきます。垂直になると周囲を梯子で囲み、「ヤーン、ヤーン、ヤーン」という独特の掛け声で「サイの神」を数回持ち上げて落とし、雪に深く突き刺します。男たちの力を結集した迫力あるシーンです。最後に、根元の

周りに豆がらを積み重ねてワラで覆い、高さ約十二メートルの「サイの神」が完成しました。

午後七時、同地区の多賀神社で、神社総代と区長、厄年の方が松明を灯し、バンバに向かいます。その頃には地区の人々が集まってきました。松明で点火するのと、「サイの神」は雪の夜空に向かって力強く燃え上がりました。集まった人々は、その火で餅やスルメを焼いて食べて無病息災を願い、「みかんまき」も行つて楽しみました。

御神酒を飲みながら「サイの神」の火にあたり、一年の幸せを願う時間がゆつくりと流れていきます。「サイの神」の火は、身も心もあたためてくれます。

# 受け継ぐ

男たちの団結と、心あたたまる時間  
山村の文化を今に伝える「サイの神」

一月十五日、小正月——町内の十一地区で、年中行事「サイの神」が行われました。この行事は、古くからの風習を守りながら、自然の神々を信仰する山村の文化を今に伝えていきます。三島町の代表的な行事です。

大登地区では、午後一時に地区の男性十名が集まり、「サイの神」作りが始まりました。この作業は、昔から男性だけで行うことが習わしとなっています。この日は大雪。カンジキを履き、新雪が積もつた山林を一行になつて進んでいきます。

御神木となる杉を決め、お神酒やスルメを供え、塩で清めます。一同で御神木を囲み、二礼二拍手一礼します。そして切り倒す前に、御神木に向かって「オー」と三回大声をあげます。こ

## 伝統の「サイの神」作り【大登地区】

大登地区の「サイの神」では、NHK福島放送局の取材があり、雪の降りしきりで行われた行事の様子が撮影され、翌日のニュース番組「はま・なか・あいつToday」の中で放送された。また、読売新聞の記者も訪れ、参加した住民の方々から話を聞いていた。



### サイの神作り

- 6 雪を踏み固める「バンバ踏み」を行い、御神木を立てる場所（バンバ）を作る。
- 7 御神木に巻きつけるワラや豆がらなどの「燃え種」をバンバに運ぶ。
- 8,9 御神木の上部から根元に向かって、ワラの束を巻きつけていく。
- 10 御神木の上部に「オンベ」を縛り付ける。
- 11 梯子を使って「サイの神」を支えながら少しずつ立てていく。垂直になると、梯子で四方から支え、オンベの向きを直してから、「ヤーン、ヤーン、ヤーン、ヤーン」の掛け声で「サイの神」を持ち上げて突き落とし、雪に深く入れる。根元の周りに豆がらを積み重ね、ワラで覆う。

### 御神木迎え

- 12 「サイの神」の芯となる御神木（杉）に御神酒やスルメを供え、二礼二拍手一礼し、「オー」と大声をあげる。御神酒をいただき、御神木を切り倒す。
- 3 御神木の上部の枝を数段残して、それより下の枝を払い、皮を削る。
- 4,5 御神木をロープで引っ張り、バンバ（御神木を立てる場所）まで運ぶ。

# 伝承される心



昔は忙しかったなあ  
でも張り合いがあった  
行事が一番の楽しみだった

## 五十嵐 文吾さん

いがらし ぶんご 大登 86歳

ものづくりや年中行事など、昔からの風習に詳しい五十嵐文吾さん。マタタビ細工の伝統工芸士で、86歳になった今も現役です。工房で笮作りをされているところにおじゃまして、お話を聞きました。

昔は「サイの神」は二本立てでいた。大人の子どものだ。子どもたちは青年会を作っていて、いろいろな役割を担っていた。「サイの神」といえば、それはにぎやかなものだったよ。そしてとても忙しかった。でも、あの当時のほうがよかったな。人情というか、助け合いというか、そういうものがあつたな。お神酒を飲み飲み「サイの神」を作り、最後には雪の上で宴会になったよ。「サイの神」は今よりずっと大きかった。人手も多かったからな。男衆が三十人位はいた。ワラや豆ガラなどの資材もたくさんあった。特に大登の「サイの神」は昔から大きくて立派だったから、宮下あたりの子どもも見に来たよ。たいしたもんだと言われたよ。母ちゃんたちも集まると本当に大勢だったよ。昔は旧暦だったから、雪が一番深い時期にやっていた。電線にくっつくほど雪があつたな。

今は、「団子さし」は十四日にやるようになったが、昔は十五日だった。団子丸めは朝の三時からやっていたよ。米団子とそば団子だ。やらなくてはならないものだと思つてたな。それから「道具の年取り」だ。のこぎり、なた、大工道具、かま、くわ、包丁、生活に使つていた道具を神棚の前に並べた。うちでは今でもやつてるよ。そして午後から「サイの神」作りだ。忙しかったなあ。でも張り合いがあつた。それが一つの楽しみだった。他に何にもなかったしな。行事が一番の楽しみだったんだ。「みかんまき」だつていうと、気持ちがあうきうきした。今の子どもはゲームもあるし、いろんなおもちゃもあるが、昔は何にもなかったから遊び道具は自分で作つたんだ。そして外を駆け回っていたよ。

今は人手が少なくなったから、「サイの神」は小さくなったな。これは仕方ないことだ。小さくても続けていくことが大事だ。部落の行事として続けていけば大丈夫だ。

### 取材を終えて

#### 年中行事から感じる人々のあたたかさ

▼「あの当時のほうがよかったな…」という文吾さんの言葉が印象的でした。不便でも、忙しくて、活気があつた時代、年中行事は暮らしの真ん中にありました。今は便利な時代ですが、年中行事は実生活から離れた「あの当時」のような集落の活気は失われてしまいました。年中行事には、地域を元気づける効果があるのだと思います。▼大登地区の「サイの神」を取材して、信仰によってつながる「人々のあたたかさ」を感じました。そして、厳しい寒さの中の共同作業によって生まれる「信頼」を感じました。▼義信さんは、文吾さんや地域の人々から行事をしっかりと受け継ぎ、それを子どもたちへ伝えようとしています。そして、町外の人々との交流も生まれています。年中行事から生まれる「人々のあたたかさ」を、子どもたちに感じてほしい。多くの人々に感じてほしいと願います。

特集「年中行事」終わり

# 親から子へ



教えられたことを  
見よう見まねで続けてきた  
次は子どもたちに伝えたい

## 五十嵐 義信さん

いがらし よしのぶ 大登 58歳

五十嵐義信さんは、大登地区の「サイの神」作りを先頭に立って行っています。また、「雪と火のまつり」での子どもの「サイの神」作り体験でも、献身的に指導されています。ご自宅に伺ってお話を聞きました。

大登地区に来て三十五年ほどになるが、その間ずっと「サイの神」に携わってきた。見よう見まねでやってきただけだ。教えられたことを続けているだけ。大登には、毎年のようにテレビや新聞の取材が来る。それからうちでは、じいちゃん（文吾さん）に教えられる。「道具の年取り」をやっているから、それにも取材が来たよ。うちみたいに、たくさん道具を並べてやる場所は、もうないんじゃないかな。大工の仕事をしているから、大工道具も並べるよ。だから一月十五・十六日は、「道具の年取り」のために今まで一度も仕事に出たことがないんだ。弟子入りした時から、親方にそのように教えられてきたしな。

人が少なくなつて、大きな「サイの神」は立てられなくなつた。最低十人は必要だ。今年ももう少し小さい御神木を立てようと思つていたが、テレビの取材が来ると聞いて、少し無理してがんばつたよ。十二日くらいあつた。国の文化財になつて、さらに注目されていく感じがするな。御神木は、厄年の人が所有する立木を使うんだ。部落所有のものを使うこともある。オンペは、おそらく厄払いのような意味があるんだと思う。ワラの巻き方は、地区によって違うんだよ。大登では東にして巻きつけ、燃えても落ちにくいようになつてるんだ。下から上まで、きれいに真っ赤に燃えたこともあるよ。結び方は「いぼ結び」という絶対に解けない方法で結ぶんだ。稲の「さでがけ」の時も同じだ。農業の知恵が行事にも使われているわけだ。この結び方やワラの巻き方を、ちゃんとできる人は少なくなつたな。

今年も、梯子六丁で「サイの神」を立てたが、昔は二十丁も使つていたよ。立ち上がったときには、周りに隙間なく梯子が並んだほどだ。人手も多かったからな。「サイの神」を立てるところを、雪まつりで見せるのもおもしろいんじゃないかな。昔は各家から、三間梯子を持ち寄って使っていたよ。以前は養蚕をやっている家が多かったから、桑の葉をとるために三間梯子が必要だったんだ。今はそんな長い梯子は使われなくなったな。

雪まつりでは、子どもたちに「サイの神」作りを教えているよ。今年も中学生で一本、小学生で一本、それから、いわきから来る人たちの体験で一本立てる予定だ。少しでも子どもたちに行事が伝わればな。

それにしても、三島ではいろいろやっているなど他から言われるよ。年中行事が町の中にこれだけ残っている町はないな。成人の日が変わつた時も、大登では最初から「サイの神」は十五日じゃないとだめだと決めて続けてきた。あと五年、十年は大丈夫だが、その後はどうなるか分からないな。若い世代がいらないから難しくなるかもしれないが、できる限りやっていたいと思うよ。



# ズームイン みしま



1 模擬店が並んだ初市  
2 大勢の町民でにぎわったみかんまき



## 雪の中、初売りにでにぎわう 三島初市

恒例の三島初市は、1月13日、役場前で開催されました。町内の事業所が加盟するスタンプ会の主催。加盟店による模擬店が並び、食料品や履物、だるまなどの縁起物が販売されました。そのほか抽選会やみかんまきも行われ、三島保育所の子どもたちからお年寄りまで大勢の町民でにぎわいました。この日は大雪となり、冬本番を迎えた中での初市となりました。



宮下商店街をパレードした三島町消防団出初式



1 つきたての餅を味わった収穫祭  
2 宮下地区の方々に習い、餅つきを体験した子どもたち



## 無農薬の餅米で餅つき体験 びおたんクラブ収穫祭

びおたんクラブ収穫祭は、1月28日、宮下活性化センターで開催され、餅つき体験と食事会が行われました。このクラブは、宮下地区の方々と三島小、三島保育所、会津農林事務所、町が連携し、宮下ふれあい公園「びおたん」を活用しながら農業体験などの活動を行っています。餅つきには、三島小5年生などが参加した「田んぼの学校」で栽培された無農薬の餅米が使われ、つゆ餅や納豆餅、きな粉餅などを味わいました。

## 子どもたちも一緒に火の用心 三島町消防団出初式

三島町消防団出初式は1月6日に行われ、消防団幹部及び宮下班、婦人防火クラブ、町議会議員、三島保育所幼年消防クラブなど約100名が参加し、無火災を願って宮下商店街をパレードしました。子どもたちは拍子木を打ち鳴らしながら、「火の用心」と元気に掛け声をかけて歩きました。その後、三島神社に参拝し無火災を祈願しました。

三島町では、昨年1年間に2件の火災が発生し、会津坂下消防署管内合計では14件発生しています。尊い命、貴重な財産を失わないために、絶対に火災を起こさないよう注意しましょう。

1 「雪上アート」では、参加者がそれぞれ自由な発想で、キャンドルを使った作品を作った。夜に点火し、全員で鑑賞した。  
2 「雪上浮き球三角ベース」は、星賢孝さん（金山町）など「奥会津オロチ団」の方々に教わりながら共に楽しんだ。  
3 早戸地区での「農村フィールドワーク」は、佐久間弥一さん、佐久間定雄さん、五十嵐徳美さんのお宅を訪問し、山村の暮らしについて様々な話を聞いた。写真は佐久間弥一さんのお宅。  
4 昭和村での「農村フィールドワーク」は、栗城ナミ子さん、本名ヨネ子さん、五十嵐ヨウさんから山村の暮らしについて聞いた。  
5 全6回の講座すべてを受講し、修了証を取得した菊地孝典さん（会津坂下町）。  
6 森の校舎カタクリで、こたつを囲んで夜遅くまで語り合い、交流を深めた参加者。  
7 モニターとして参加した吉兼秀夫さん（日本エコミュージアム研究会会長、阪南大学教授）



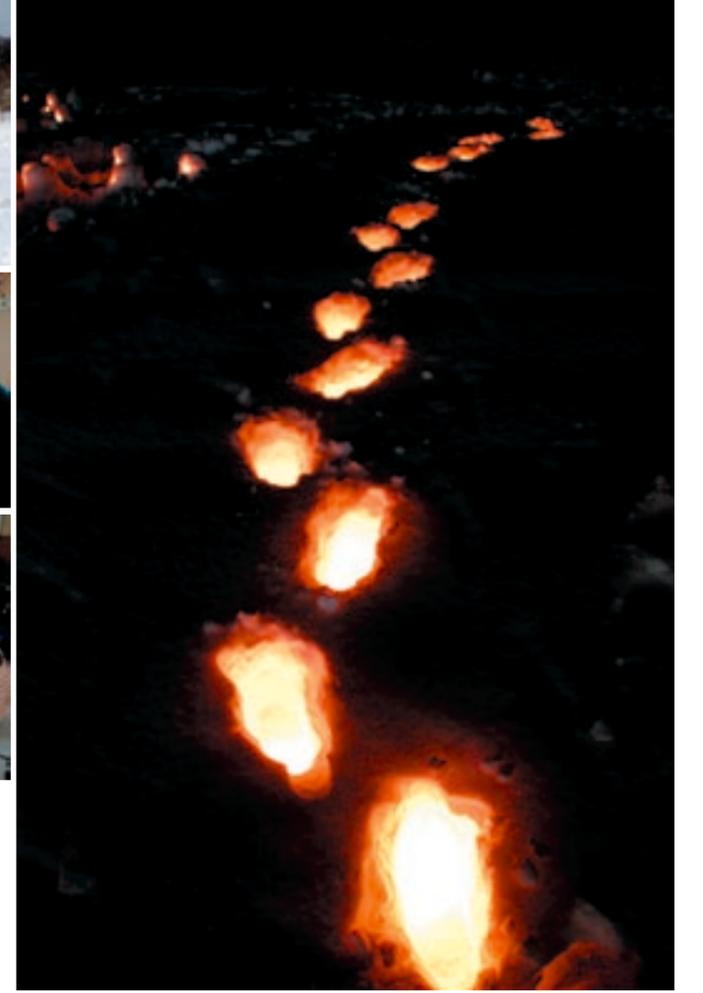
5



6



7



1

## 雪国の自然、暮らしを体感できるツアーを企画

### 奥会津案内人講座2008モニターツアー

奥会津案内人講座は、奥会津の自然・文化・人に学びながら、インタープリター（案内人）としての知識や基礎技術などを実習スタイルで学ぶものです。嵯峨創平氏（NP O-DEC代表・東京）を全体コーディネーターとして、七月から全六回のプロプログラムが行われてきました。最終回は、一月十日から十二日の二泊三日の日程で、「奥会津の冬の暮らし体験モニターツアー」が行われました。ツアーは、モニター参加者五名、受講生五名、地元講師七名、事務局スタッフ四名、計二十一名で実施されました。  
森の校舎カタクリを宿泊場所として、受講生が発案した「雪上浮き球三角ベース」「雪上アート」などの体験プログラムが行われ、参加者の方々は全身で雪を満喫した様子でした。また、「農村フィールドワーク」では早戸地区と昭和村を訪れ、地元住民の話を聞きながら雪国の暮らしにふれました。  
今回のモニターツアーは、今後の新しい観光事業の手がかりとなるものです。地元住民と交流し、田舎の暮らしに深く入り込むような体験ツアーが志向されています。

## 町の宝を火災から守れ

桑原地区で防火訓練 文化財防火デー



防火訓練を行う桑原地区の方々

一月二十六日「文化財防火デー」に合わせた防火訓練は、一月二十五日、桑原地区の三島神社周辺で行われました。消防団員や桑原地区の住民の方々と約五十名が参加しました。訓練は、三島神社南側の山林から出火し、神社に延焼したという想定で行われました。会津坂下消防署三島出張所の消防士の指導のもと、通報訓練、放水訓練、消火訓練などが実施されました。

「文化財防火デー」は、昭和二十四年一月二十六日に奈良県の法隆寺金堂で火災が発生し、国宝十二面壁画の大半を焼失してしまつたことをきっかけに定められました。三島神社も含め、三島町にも先人が残した木造の遺産がたくさんあります。それらを後世へ残すために、そして尊い命を守るために、火災には十分気を付けなければなりません。訓練が最大の「防災」です。

## 大谷班に軽消防自動車を配備

(社)日本損害保険協会から寄贈



寄贈された小型動力ポンプ付軽消防自動車

(社)日本損害保険協会から三島町に、小型動力ポンプ付軽消防自動車一台が寄贈され、消防団大谷班に配備されました。町内には、消防ポンプ車一台、小型ポンプ積載車十一台が配備されています。その中で、大谷班の小型ポンプ積載車の老朽化が進んでいたため、今回寄贈されたものを配備しました。この軽消防自動車は、最新の小型ポンプを搭載し、狭い道でも機動力を発揮します。

受納式は、十二月十五日、町民センターで行われ、同協会福島県支部の鈴木孝佳会長が齋藤茂樹町長に目録を手渡ししました。同協会では、地域消防活動の発展のため、これまで二六三台の消防自動車を全国の自治体に寄贈してきました。五十嵐五郎町消防団長は、「大変感謝しております。この消防自動車を使わずに済むように、予防消防に努めていきます。」と感謝の言葉を述べました。

## 町の保健活動について 真剣に話し合う

保健推進員研修会



保健推進員研修会

第六回保健推進員研修会は、一月三十日、町民センターで行われ、十九名が参加しました。この研修会では、二年にわたる研修制度や栄養の知識を深め、三島町の高齢者、母子の実態から自分たちの役割を考えてきました。今回は、これまでの活動の振り返りを行いました。

研修会では、「健診会場での手伝いや未受診者へのお便りの配布などしたが、もっと健診を受診してもらうためにはどうしたらよいか。」「親子の料理教室を行っているが、参加者が少なく残念。もっと魅力的な集まりにするためにはどうしたらよいか。」などの真剣な話し合いが行われました。今後、このような保健推進員の皆さんの話し合いが、町の健康づくりを押し上げてくれるものと期待できます。

最後に、保健推進員の一人、鈴木タカ子さん(小山)の指導により、みんなでストレッチ体操を行いました。

## 自治功勞表彰

自治功勞表彰式は、一月五日、町民センターで行われ、次の方々が表彰されました。

### ◎特別功勞表彰

小柴修 一様 (西方 議会議員)

酒井ハナヨ 様 (宮下 議会議員)

渡部重記 様 (大石田 副町長・収入役)

### ◎功勞表彰

阿部英敏 様 (松原 農業委員)

五十嵐義信 様 (大登 選挙管理委員)

消防団員

### ◎頭彰表彰

三島小学校「よい歯の学校」特別表彰

### ◎感謝表彰

町へ多額の寄附

齋藤賢夫 様 (宮下)

神保ヨシノ 様 (会津若松市)

小島健一 様 (春日部市)



前列左から、渡部重記さん、小柴修一さん、齋藤賢夫さん、酒井ハナヨさん、阿部英敏さん  
後列左から、五十嵐義信さん、板橋雄くん(三島小6年)、坂内洋二 三島小学校長

## 今年1年の交通事故ゼロを祈願

三島町交通安全合同祈願祭



玉ぐしをささげる秦兵輔交通安全協会三島分会長

三島町交通安全合同祈願祭は、1月30日、三島神社で行われました。約20名が参加して御祈禱が行われ、齋藤茂樹町交通対策協議会長、五十嵐廣和会津坂下警察署長、佐藤岩男宮下土木事務所長、角田伊一町議会議長、佐久間源一郎地域交通安全活動推進委員、佐藤直美町交通安全母の会長、秦兵輔交通安全協会三島分会長が、それぞれ玉ぐしをささげました。三島町では、2月1日現在、交通死亡事故ゼロが1,695日続いています。

光ファイバーケーブル敷設などについて意見交換 各地区で座談会



西方地区の座談会（西方ふるさとセンター）

地区座談会は、1月26日から30日にかけて、各地区の集会所などで開催され、次の項目についての説明と意見交換が行われました。

- ①情報通信基盤（ブロードバンド）の整備について
- ②「行財政改革アンケート」の結果報告について
- ③若手職員の先進地視察調査とその後の取り組みについて
- ④文化財を活用した地域づくりについて

情報通信基盤（ブロードバンド）の整備は、来年度、町が重点事業として進めるものです。約1億5千万円をかけて、「光ファイバーケーブル」を町内全域に敷設することを計画しています。財源は、県の補助金と過疎対策事業債を予定しています。これにより、超高速インターネットサービスの利用が可能になります。そのほか、町では平成22年度以降、地上デジタルテレビ放送への対応や、IP告知端末の利用など様々な形で「光ファイバーケーブル」を活用し、生活基盤の向上を図りたいと考えています。特にテレビについては、現状では平成23年7月24日にアナログ放送が終了するまでに、デジタル放送に対応したテレビまたはチューナーを自己負担で購入しなければなりません。負担できない世帯が心配されるため、町では「光ファイバーケーブル」を活用し、デジタル放送の電波をアナログに変換して配信することを検討しています。そうすれば、アナログ放送用のテレビのみでも視聴することができます。

座談会では、「一人暮らし高齢者世帯などにも公平に対応できるようにしてほしい。」などの意見が出されました。今回の座談会で出された意見や質問、提案などについては、3月に開催を予定している「町民ひろば」において皆様にご報告します。

図 役場 総務課 企画財政係 TEL 48-5515

申告相談の日程

2月12日(木)		
滝原	9:00~11:00	滝原林業集会所
早戸	13:30~16:00	早戸生活改善センター
2月13日(金)		
浅岐	9:00~11:00	浅岐集会所
間方	13:30~16:00	間方集会所
2月17日(火)		
桧原	9:00~15:00	桧原多目的集会所
2月18日(水)		
川井	9:00~15:00	川井集会所
2月19日(木)		
小山・高清水	9:00~11:00	高清水集会所
桑原	13:30~15:30	桑原集会所
2月20日(金)		
名入	9:00~15:00	名入集会所
2月23日(月)		
大登	9:00~15:00	大登生活改善センター
2月25日(水) ふるさとセンター		
西方(隣組1~7組)	9:00~15:00	
2月26日(木) ふるさとセンター		
西方(隣組8~14組)	9:00~15:00	
2月27日(金)		
大石田	9:00~15:00	大石田生活改善センター
3月1日(日)		
全地区	9:00~15:00	町民センター
3月3日(火)		
大谷	9:00~15:00	大谷活性化センター
3月4日(水)		
滝谷	9:00~15:00	滝谷集会所
3月5日(木)		
宮下(上ノ原・米子沢・青方)・荒屋敷	9:00~15:00	町民センター
3月6日(金)		
宮下(居平・館・水尻・中乙田・下乙田)	9:00~15:00	町民センター
3月9日(月)		
宮下(宮下・建堀・田中・中田)・中平	9:00~15:00	町民センター
3月10日(火)		
所得税白色申告者	9:00~15:00	町民センター

図 役場 町民課 町民生活係 TEL 48-5555

町県民税・所得税申告相談のお知らせ  
【申告期間】2月12日~3月16日

平成二十一年一月一日現在、三島町に住所があった方は、平成二十年中の収入を申告していただくこととなります。申告しない場合は「国民年金保険料の免除」「国民健康保険税等の軽減措置」などが適用されない場合がありますので、忘れずに申告してください。

**◎申告が必要な方**  
平成二十一年一月一日現在で三島町に住所があり、平成二十年（平成二十年一月～十二月）に次のような収入があった方。  
① 農業・営業などの事業所得、地代・家賃などの不動産所得、土地（地上権等を含みます）・建物を売却したことによる譲渡所得などにより収入があった方  
② 給与収入のある方で、  
ア 年末調整を行っていない方  
イ 年末調整済みの給与以外からの給与収入が二十万円以上あった方  
ウ 勤務先等から役場へ給与支払報告書の提出のない方  
③ 収入が公的年金のみで、各種控除（社会保険料控除、生命保険料控除）を受ける方  
④ 非課税年金（遺族年金・障害年金）のみ受給している方

**◎申告が不要な方**  
① 確定申告（所得税の申告）をしていない方  
② 公的年金収入だけの方で、六十五歳未満の方は、収入「七十万円」以下、六十五歳以上の方は、収入「百二十万円」以下（公的年金の種類は、厚生年金・国民年金・共済年金・農業者年金など。年齢は、平成二十年十二月三十一日が基準日です。）  
③ 年末調整をした給与以外に収入のない方

**◎申告に必要なもの**  
① 印鑑（所得税の確定申告の方は銀行印、金融機関の口座番号がわかるもの）、申告書  
② 収入金額と必要経費のわかるもの  
・ 給与、公的年金のある方  
・ 源泉徴収票または勤務先から発行された給与や賃金の支払証明書など  
・ 農業所得のある方  
・ 農業収入申告書（後日配布します）または耕作反別及び収穫量等を記入した書類  
・ 出荷伝票や各種交付金・補助金などの収入関係の書類  
・ 農薬、肥料、農機具等の領収書  
・ 営業、不動産所得のある方  
収入金額と必要経費のわかる帳簿（売上帳、仕入帳など）や領収書  
③ 各種控除を証明できるもの  
・ 社会保険料（国民年金保険料、国民健康保険税、介護保険料、後期高齢者医療保険料）、生命保険、地震保険の領収書や証明書  
・ 医療費控除を受ける方は、領収書及び保険金（高額療養費も含まれます）などで補てんされる金額のわかるもの  
※ 医療費控除を受ける場合は、事前に役場窓口から専用の封筒を受け取り、領収書等の金額を医療機関ごとに集計してきてください。

**◎申告相談の日程**  
地区別相談日程は次ページのとおりです。期間中は役場の申告は行いませんので、日程に合わせておいでください。都合の悪い方は、三月十一日～十六日の午前九時～午後三時に、役場窓口にお越しください。  
※ 三月十四日（土）・十五日（日）は閉庁となります。  
※ 三月一日（日）は、平日に勤務されている方、または地区の相談日に都合が悪い方を対象とします。

これからの行事予定 town schedule

- 2月8日(日)
  - 9:30～ 町民スキー教室(町営スキー場)
  - 13:00～ ちびっ子スキー大会(町営スキー場)
- 2月10日(火)
  - 10:00～ ワンダークラブ(三島保育所)
- 2月12日(木)
  - 9:30～ 心配ごと相談(福寿草)
- 2月13日(金)
  - 8:15～ 三島中スキー大会(町営スキー場)
- 2月14日(土)
  - 9:00～ 奥会津の底力展 会津桐新商品展示販売会(交流センター山びこ)
  - 13:00～ 第37回雪と火のまつり(町民運動場)
- 2月20日(金)
  - 9:00～ 三島小スキー大会(町営スキー場)
  - 10:00～ Y Yサークル(柳津町ふれあい館)
- 2月22日(日)
  - 10:00～ すってんコロリンピック(町営スキー場)
- 3月1日(日)
  - 13:00～ 会津ぴーひゃらどん公演(町民センター)
- 3月3日(火)
  - 10:00～ ワンダークラブ(三島保育所)
- 3月5日(木)
  - 13:30～ 民生児童委員協議会定例会(福寿草)

**みんなで健康づくり《教室・健診の予定》**  
 園 役場 町民課 保健福祉係 TEL 48-5565

**4ヶ月児健診**  
 2月10日(火) 11:15～ 坂下厚生総合病院

**足腰げんき教室(水中運動編)**  
 2月19日(木) 13:00 町民センター集合  
 河東学園プール

**からだ元気運動教室**  
 2月24日(火) 13:30～ 町民センター  
 3月5日(木) 13:30～ 町民センター

**機能訓練会**  
 2月25日(水) 14:00～ 福寿草

**乳幼児健診**  
 2月26日(木) 13:00～ 町民センター

《社会福祉協議会より》  
 生きがいデイサービス「サロン事業」の予定

**桧原はつらつクラブ**  
 2月17日(火) 10:00～ 桧原多目的集会所

**滝谷和楽塾**  
 2月19日(木) 10:00～ 滝谷集会所

**高清水・小山いきいきサロン**  
 2月24日(火) 10:00～ 高清水集会所



ふるさと三島町への応援、本当にありがとうございます

ふるさと納税としての寄附金は、1月末現在、右記のとおりとなっております。ご寄附いただいた皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

寄附件数	12件
寄附総額	251万7千円

ご寄附ありがとうございました

- ふるさと納税として
- 角田 新作 様 (神奈川県横浜市)
  - 角田 ミツエ 様 (神奈川県横浜市)
- 社会福祉協議会へ  
 ご遺志によるもの
- 角田 三男 様 (川井)
  - 角目 黒高一 様 (滝谷)
  - 栗城 善七 様 (宮下)
  - 舟木 義徳 様 (間方)
- 一般のご寄附
- 山内 マツエ 様 (大石田) 鍋敷き(布製)

FISフリースタイルスキー 世界選手権 猪苗代大会

福島県文化スポーツ局

FISフリースタイルスキー世界選手権が猪苗代町などで開催されます。上村愛子選手が活躍している「モーグル」をはじめ、5種目で世界最高峰の技とスピードが観戦できます。ぜひ会場にお越しください。

- 3月2日 猪苗代スキー場中央  
種目：スキークロス
  - 3月3・4日 リステルスキーファンタジア  
種目：エアリアル
  - 3月5日 アルツ磐梯  
種目：ハーフパイプ
  - 3月7日 リステルスキーファンタジア  
種目：モーグル
  - 3月8日 リステルスキーファンタジア  
種目：デュアルモーグル
- 園 世界選手権猪苗代大会組織委員会  
 TEL 0242-72-1557

会津坂下警察署からのお知らせ

三島町では12月中、窃盗1件、器物損壊1件が発生しました。平成20年中の会津坂下署管内の犯罪発生件数は、前年より2件増加しました。身近な所で発生している自転車盗や車上ねらいなどの犯罪は、依然として多い状況にあります。三島町内では、ガソリンや金属の盗難など屋外での窃盗事件が多い状況でした。自宅周辺を防犯灯で明るくし、車庫などは必ず施錠するようお願いいたします。

街頭犯罪等発生状況(平成20年中)

区分	管内	三島町
空き巣ねらい	1	1
忍込み		
事務所荒し	5	
出店荒し	1	
自動車盗	3	
オートバイ盗		
自転車盗	10	
自販機ねらい	6	
車上ねらい	7	1
強制わいせつ		
街頭犯罪計	33	2
全刑法犯	143	9

※全刑法犯には、街頭犯罪以外(器物損壊・傷害・万引き等)の犯罪発生件数が含まれます。

春季全国火災予防運動 3月1日～3月7日

会津坂下消防署 三島出張所

春が近づくと、火災が発生しやすくなります。大切な命や財産を守るために、火災を絶対に起こさないよう十分注意しましょう。

全国統一標語

「火のしまつ君がしなくて誰がする」  
 住宅防火 命を守る7つのポイント  
 3つの習慣

- 寝たばこは絶対にしない。
- ストーブは燃えやすい物から離れた位置で使用する。
- ガスコンロなどから離れる時は必ず火を消す。

4つの対策

- 逃げ遅れを防ぐ  
「住宅用火災警報器」を設置する。
- 寝具や衣類、カーテンは、「防災製品」を使用する。
- 火が小さいうちに消すために、「消火器」を購入する。
- 子どもやお年寄を守るために「隣近所」で協力する。

三島町の火災及び救急件数(平成20年)

	件数	前年比
火災	2件	+1
救急	102件	-10

※約20人に1人が救急車で運ばれています。

園 会津坂下消防署 三島出張所  
 TEL 52-3032

今月の納税

- 固定資産税 第4期
- 国民健康保険税 第6期
- 介護保険料(普通徴収) 第6期
- 後期高齢者医療保険料 第7期

※納期限は3月2日(月)です。  
 ※口座振替で納付されている方は、口座振替日は2月25日(水)ですのでご確認ください。

園 役場 町民課 町民生活係  
 TEL 48-5555

インフルエンザ流行 感染予防に努めましょう

役場 町民課 保健福祉係

インフルエンザの流行が昨年末から始まり、三島町でも何件か発生が見られています。インフルエンザは「飛まつ感染」という形で感染します。患者が咳をした時に飛び散るしぶきの中にウイルスがいて、周囲にいる人が吸い込んで感染します。そのため、流行を防ぐために一番大事なことは、インフルエンザにかかった方が出歩かないことです。病院に行く時も、マスクをしてしぶきが飛ばないようにしてください。また、発熱や咳の症状がある時は、職場や学校に無理をして出かけることも大事です。

予防接種のほかに日常生活の中でできる予防方法は、①うがい手洗いをまめにする、②ウイルスは低温、低温を好むので、部屋には適度な湿度を保つこと、③人ごみを避けること、④栄養と休養を十分とること、⑤マスクをすることなどです。

園 役場 町民課 保健福祉係  
 TEL 48-5565

三島町老人クラブ連合会 「健康づくり事業」の予定

スポーツ民謡教室

- 2月9日(月) 2月16日(月)
- 2月23日(月) 3月2日(月)
- 3月9日(月) 納会
- 場所 町民センター
- 時間 13:30～

公式輪投げ教室

- 2月18日(水)
- 場所 町民センター
- 時間 13:30～

健康増進のための料理教室

- 2月25日(水) 西方ふるさとセンター
- 2月28日(土) 大石田生活改善センター
- 2月28日(土) 名入集会所
- 3月7日(土) 高清水集会所
- 3月10日(火) 間方集会所
- 時間 9:30～

※これらの行事には、老人クラブ会員でなくても満60歳以上の方なら誰でも参加できます。

歳時記 萌の会

ためらはず大書としたる初句かな  
 冬至風呂古き果実酒舐めてみる

松原片山祐一

本年も平凡が良い初日記  
 撫で牛やまは健康初詣

宮下諸井まさ子

# 大豆栽培や味噌づくりなど 昔ながらの食文化を伝えたい

## 「森の校舎カタクリ」運営

### 西方カタクリの会



左から、高橋信子さん、小柴チヨさん、田中シウさん、小柴ヨシノさん、小堀サイさん

今、森の校舎カタクリの食事が注目されています。ここ数年、昭和女子大（東京）の学生約百二十名が、郷土料理を学びに毎年訪れています。また、昨年は東京女子医大の学生も訪れました。食事を提供するのには、「西方カタクリの会」の皆さん。代表の小柴ヨシノさんは、

「食の不安が問題となつてい  
るから、みんな安心できる食  
事に関心があるのですね。」  
と話します。メニューは、自  
分たちで栽培した野菜など  
を使った家庭料理。学生の料理  
体験では、こづゆや大根煮、  
三角巻き、餅、きな粉作りな  
どを教えています。今年は大  
豆を栽培し、味噌や納豆など  
を作ることも計画中です。

「大豆だけでも、いろいろな  
メニューが考えられます。地  
域の方々と協力しながら様々  
な体験プログラムを作り、町  
内外の人々に昔ながらの食文  
化を伝えていきたいです。」

お客様が美味しいと喜んで  
くれることが、何よりうれし  
いというメンバーの皆さん。  
最後にこれからの目標を聞くと、皆さん口をそろえて、  
「チームワークを大切に、楽しく生きがいを持ってやっていくことです。」

## みしま 編集後記

第54回福島県市町村広報コンクールの広報誌の部で、「広報みしま」平成20年11月号が入選（2席）、同じく一枚写真の部で平成20年1月号2、3ページが佳作（4席）を受賞しました。町の広報に対する町民の皆さんのご協力のおかげと、大変感謝しております。今後も、皆さんの活躍をもっともっと伝えるために努力していきます。

左\_広報誌の部で入選した「広報みしま」平成20年11月号  
右\_一枚写真の部で佳作となった「広報みしま」平成20年1月号2、3ページ



### 人口と世帯 1月1日現在（住民基本台帳）

人口	2,147人 (-5)	12月中の	出生0人
(男)	1,012人 (-2)	人の動き	死亡4人
(女)	1,135人 (-3)		転入4人
世帯数	861世帯 (-2)		転出5人

### 広報 みしま 2月号 No.191

発行日 平成21年2月6日  
編集 三島町役場 総務課 企画財政係  
福島県大沼郡三島町大字宮下字宮下350  
Tel 0241-48-5515  
ホームページ <http://www.town.mishima.fukushima.jp>  
印刷 株式会社アポロ



「広報みしま」は環境にやさしい大豆インクを使用しています。

※本誌の印刷経費は1部69.78円です。